

2024年6月23日 No. 3725

先週の講壇から

“ 人生の穴 ”

創世記 第 37 章 18 節～27 節

聖句「ヨセフがやって来ると、兄たちはヨセフが着ている着物、裾の長い晴れ着をはぎ取り、
彼を捕らえて、穴に投げ込んだ。」(37:23,24)

1. 《突然の不幸》 阪神大震災で家族と新居を失った男性が、それでも懸命に働き続けて数年後、ほんの少し心に余裕の出来た日曜日、外で遊ぶ子供の歓声を耳にして深い悲しみに襲われました。それが教会の扉を叩き、洗礼を受ける契機になったそうです。受洗者が出て素直に喜べないと、牧師は思ったそうです。けれども、確かに「不幸の召命」はあります。私たちの人生に降り掛かる、耐え難い悲しみが、神さまに召されるチャンスになることがあるのです。
2. 《引き受ける》 突然、勤め先の企業からリストラされた男性が、夜に牧師館を訪ねて来ました。牧師が慰める言葉も見付からず悩んでいると、彼は「右肩上がり的人生が続くと思っていたが、不安定な人生の現実が初めて見えて来た」「取り敢えず行ける所まで行ってみようと思う」と語り、却って牧師の側が大いに慰められたと言います。1829 年、新潟の震災を目撃した良寛和尚は、知人に宛てて「地震は、真に大変に候。…しかし、震災に遭う時節には震災に遭うがよく、死ぬ時節には死ぬがよく候」と書き送っています。私たちの心は、苦しみを苦しみとして引き受けられず、更に多くの不幸を呼び込んでしまうことがあります。しかし、苦しみを苦しみとして生きる時、これまで見えなかったものが見えて来るのです。
3. 《人生には穴》 ノートルダム清心女子大学の学長を務められた渡辺和子の著書に「人生には穴があくことがある」という一節があります。穴の中から見えて来るものがあると仰るのです。「創世記」のヨセフは、父親の溺愛を一身に受け、他の兄弟たちから妬まれて、殺されそうになります。晴れ着を剥ぎ取られて、穴に投げ込まれますが、数奇な運命を経て、エジプトの宰相となり、飢餓難民としてエジプト入りした兄たちを助けるのです。ヨセフは兄たちに身の上を明かします。「あなたたちがエジプトに売った弟のヨセフです。しかし今は、私をここへ売ったことを悔やんだり、責め合ったりする必要はありません。命を救うために、神が私を、あなたたちより先にお遣わしになったのです」。人生のステージに穴があいた時、その穴から、全く新しいステージが始まるかも知れません。

朝日研一朗牧師